

指定棚田地域振興活動計画

作成主体の名称：東峰村農林業振興協議会

1 指定棚田地域振興活動を通じて保全を図る棚田等に関する事項

(1) 棚田等の名称及び範囲

小石原棚田、宝珠山棚田

範囲については、別添 1 のとおり。

2 指定棚田地域振興活動の目標

(1) 棚田等の保全

- ・ 耕作放棄の防止・削減
 - 令和 1 1 年まで新たな耕作放棄地の発生をゼロにする（2024 年時点：11ha）。
- ・ 担い手の確保
 - 令和 1 1 年まで農家戸数 258 戸（2020 年時点）の現状を維持する。
 - 令和 1 1 年までに農業法人東峰村農業生産組合で新規就農者を 1 名以上雇用する。
 - 令和 1 1 年までに棚田の保全に取り組む参加者を増やすためのイベントを年 2 回開催する。
- ・ 生産性・付加価値の向上
 - 令和 1 1 年までに農業法人東峰村農業生産組合及び任意団体すいと一小石原が集積・集約し、耕作面積を 10ha にする。（現状：7.1ha）

(2) 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

- ・ 農産物の供給の促進
 - 令和 1 1 年まで小石原棚田における高原米の販売量※約 50t/年の現状を維持する。
 - 令和 1 1 年まで宝珠山棚田における棚田米の販売量※約 58t/年の現状を維持する。

※JA 米検査実績過去 3 年の平均値。
- ・ 良好な景観の保全
 - 令和 1 1 年まで、宝珠山棚田で景観作物であるレンゲの播種を実施し、良好な景観を維持する。また、令和 1 1 年まで、小石原棚田でもみじ等の植栽や管理を実施し、良好な景観を維持する。
 - 令和 1 1 年までに小石原棚田周辺の森林において 1 か所（20 本）、宝珠山棚田周辺の森林において 2 か所（40 本）、間伐及び広葉樹の植林を行う。
- ・ 伝統文化の継承

- 各棚田の集落で伝統行事である1月鬼火焚き、4月岩屋まつり、6月お獅子まわし、7月高木神社夏祭り、10月小石原千灯明・夜神楽、10月おほし様まつりと、棚田を舞台とするイベント等、それぞれの祭りやイベントを継承する関係村民の数を維持する。

(3) 棚田を核とした棚田地域の振興

- ・ 棚田における都市農村交流を通じた交流・関係人口の創出・拡大による地域振興
 - 宝珠山棚田の竹地区棚田で実施されている農業体験や小石原棚田で実施されている半農半陶体験のプログラムを通して、来訪者を誘客する。
 - 村のHP、広報誌、ポータルサイト等との連携により、令和11年までにHPアクセス数年間600,000件を獲得し、棚田のファンづくりを行う。
(現状：290,000件)
 - 村外から棚田や村を支援する「東峰村応援団」の環の拡大に向け、令和11年度までに300人を登録する。(現状：158人)
- ・ 棚田を観光資源とした地域振興
 - 小石原地域では、旧小石原小学校跡地を活用した、宿泊施設の利用を検討中である。また宝珠山地域では、九州北部豪雨で被災した農村ツーリズムの宿・ほうしゅ楽舎の再建が完了し、来訪者を受け入れている。さらに竹棚田では、農業体験者の宿泊施設「あんたげ」に棚田の魅力を求める来訪者を受け入れている。この他、棚田親水公園や岩屋キャンプ場などの観光施設、宿泊施設に加え、棚田百選に選ばれている竹棚田では、棚田を観光資源としたイベントを開催している。これらの棚田に関連する観光資源を利用する来訪者を受け入れる。
- ・ 棚田米等を活用した6次産業化の推進
 - 宝珠山棚田において、令和11年までに地元で採れた農産物、岩屋湧水を使った商品を開発し、12,000千円の売り上げを達成する(総合戦略での数値目標)。
 - 棚田地域における農林産物・加工品と小石原焼等によるパッケージ商品開発に取り組む。

(目標設定の考え方)

・ 地域の概要

当地域は、「日本の棚田百選」に認定されている竹地区をはじめ、谷間のわずかな土地を農地として利用するため、約400年前から先人たちが石を積み、美しく築き上げた棚田で農業を続けている。東峰村の総面積は51.97km²で、そのうち山林原野が86%を占めており、耕地面積は約5%(2.5km²)となっているが、「平成の名水百選」に認定された岩屋湧水や山々からの清流によって、美味しい米を生産し、ふるさと納税などで人気を集めている。冬季には積雪を見ることが多いが、夏季は平地より3~5℃ほど気温が低く、その気候を活かした野菜の生産も行われている。

平成29年の九州北部豪雨では、農地に大きな被害を受けたが、復旧も進み稲作を再開し始めている。同災害では、東峰村に3カ所の駅があるJR日田彦山線にも大きな被

害があり、鉄道での復旧は難しく、現在はBRT（バス高速輸送システム）での運行となったが、車窓から棚田の景観を楽しむ等、観光客により賑わいを見せている。

・現状と課題

東峰村の人口は、令和2年の国勢調査では1,899人となっており、合併した平成17年の2,749人と比較しておよそ31%減少している。また、今後の人口推移は、2045年までに1000人を下回る予測となっている。

東峰村の第3次総合計画では、観光客などの交流人口や、ふるさと納税等で継続的に関わってもらう関係人口を呼び込むむらづくりを目指しており、そのためにも、村の恵まれた自然環境を次世代に引き継いでいくことが重要となっている。

・今後の展開

竹地区の棚田周辺では、キャンプ場・ゲストハウスや棚田カフェ等の観光施設に、村外からの来訪者が多くなっていることから、各種イベントの充実をサポートすることにより、さらなる交流人口の増加を推進する。

人口減少に伴って、現状の農家の中にも廃業や亡くなる方も出てくると考えられるため、交流人口から新たな就農者を獲得して、村の気候や環境を活かした農業を持続させていく。

地元農産物の販売を増加させることや、6次化商品を含む村の認定商品のPRを行い、道の駅小石原などで、生産者と消費者の交流を推進する。

3 計画期間

認定の月～令和12年3月末

4 各年度において行う指定棚田地域振興活動の内容及び実施主体に関する事項

(1) 指定棚田地域振興活動の内容

以下の指定棚田地域振興活動について、別添3の工程表に基づき実施することとする。

① 棚田等の保全

- ・ 耕作放棄の防止・削減
 - 農業法人東峰村農業生産組合等によって、小石原棚田及び宝珠山棚田の耕作放棄地を維持する。
- ・ 担い手の確保
 - 地域おこし協力隊制度等を活用しながら、小石原棚田及び宝珠山棚田における担い手を確保するとともに、将来の担い手の確保につなげていく。
 - 農業法人東峰村農業生産組合による新規就農者の雇用、農作業の実施を進め、小石原棚田及び宝珠山棚田における保全の担い手として活動する。
 - 外部からの新規就農者に対しては、JA筑前あさくら、福岡県朝倉普及指導センター、福岡県農林事務所、農業法人により営農指導及び販売支援を行う。
- ・ 生産性・付加価値の向上

- 農業法人東峰村農業生産組合や任意団体すいと一小石原が中心となって、所有する農業機械を共同利用し、農作業の効率化を図る。

② 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

- ・ 農産物の供給の促進
 - ブランド米である小石原棚田の高原米及び宝珠山棚田の棚田米について、JA 筑前あさくら、農業法人東峰村農業生産組合及び任意団体すいと一小石原と協力しながら、生産量の増加とともに、販売を促進する。
- ・ 良好な景観の保全
 - 棚田景観の再生と保全の取り組みの一つとしてそれぞれの地域の集落においてレンゲの播種に取り組むほか、ツツジの植栽や管理を行い良好な棚田景観の保全を図る。
 - 災害に強く豊かな水を育む森林づくりを進めるため、森林の針広混交林への移行を目指して、森林ボランティアや朝倉森林組合が中心となって、広葉樹の間伐及び植林を行う。
- ・ 伝統文化の継承
 - 伝統行事である 1 月鬼火焚き、4 月岩屋まつり、6 月お獅子まわし、7 月高木神社夏祭り、10 月小石原千灯明・夜神楽、10 月おほし様まつり、棚田を舞台とするイベントとして 6 月の火祭り、11 月の棚田ライトアップなどを、それぞれの集落や団体により開催し、伝統文化の継承を図る。

③ 棚田を核とした棚田地域の振興

- ・ 棚田における都市農村交流を通じた交流・関係人口の創出・拡大による地域振興
 - 宝珠山棚田の竹地区の棚田において、竹棚田保全委員会等が中心となって、6 月に田植え体験・ジャガイモ収穫体験、火祭り、10 月に稲刈り体験・サツマイモ収穫体験等のイベントを実施し、観光客を誘客する。
 - 小石原棚田では、任意団体すいと一小石原が、鬼火焚きと餅つき、田植えと小石原焼陶芸体験を組み合わせた半農半陶体験のプログラムを実施し、観光客を誘客する。
 - これらの農業体験、半農半陶体験のプログラムについては、村の HP、広報誌、ポータルサイト等と連携して紹介し、観光プロモーションを促進し、交流人口の増加を促進する。
 - 村外から東峰村を応援する「東峰村応援団」の仕組みを活用し、村内の特産品、イベントとつなげていくことにより、村の関係人口の創出・拡大を図る。
- ・ 棚田を観光資源とした地域振興
 - 小石原棚田周辺において、旧小石原小学校跡地を活用し、観光客を受け入れる。
 - 宝珠山棚田周辺において、九州北部豪雨で被災した農村ツーリズムの宿・ほうしゅ楽舎を活用し、宿泊客を受け入れる。

- 宝珠山棚田の竹集落において、一般社団法人竹棚田により、古民家を再生したゲストハウス「あんたげ」を運営し、宿泊客を受け入れる。
 - 宝珠山棚田の竹地区の棚田において、6月に火祭り、11月に棚田ライトアップなどの棚田を観光資源としたイベントを開催し、観光客を誘客する。
 - 宝珠山棚田において、12月から1月にかけて、棚田越しに望む眼鏡橋（栗木野橋梁、宝珠山橋梁）のライトアップを行い、棚田景観を活かしたイベントを実施し、観光客を誘客する。
- ・ 棚田米等を活用した6次産業化の推進
- 宝珠山棚田で採れた農産物・加工品、岩屋湧水を使った商品開発を進め、販売促進に取り組む。
 - 棚田地域における農林産物・加工品と小石原焼等によるパッケージ商品の開発に取り組む。

（２）指定棚田地域振興活動の実施主体

上記（１）に掲げる指定棚田地域振興活動の実施主体は、主に下記５の指定棚田地域振興協議会の参加者である。特に指定棚田地域検討委員会を中心に、棚田等の保全・棚田地域の振興等の取り組みを行う。また、同協議会の参加者ではないが、宝珠山棚田の竹地区においては一般社団法人竹棚田が、小石原棚田においては任意団体のすいとー小石原及び小石原地域農泊推進協議会がそれぞれの地域で棚田を核とした棚田地域の振興につながる活動を実施する。

５ 指定棚田地域振興協議会に参加する者の名称又は氏名

東峰村農林業振興協議会は東峰村、村議会、朝倉農林事務所、朝倉普及指導センター、JA、森林組合、農業法人、農業委員会、地域住民で構成。

参加者の名称（役職）又は氏名は別紙のとおり。

６ その他指定棚田地域振興活動に関し必要な事項

特になし